



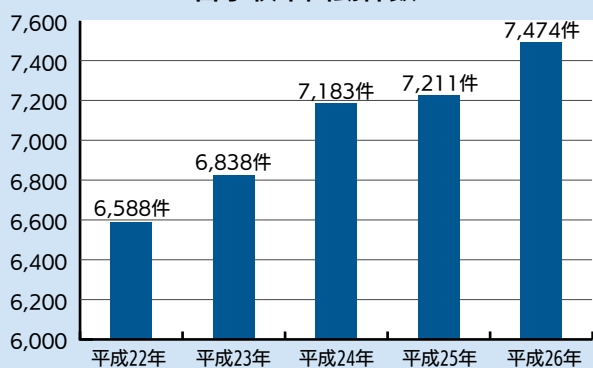
救急要請の現状

本市では人口規模の基準により、消防署（末広町）と4力所の出張所（錦岡、日新町、新富町、沼ノ端）に5台の救急車を配備しています。

平成26年の出動件数は7千474件で、平成22年の6千588件から比べると86件も増加しています。平成26年の出動件数のうち病院に搬送された件数は6千763件で、この搬送件数の50%は入院が必要となった方です。

このような状況の中で、搬送件数には含まれてはいませんが、タクシー代わりの利用や優先的に病院で受診させてもらえるからなどの安易な

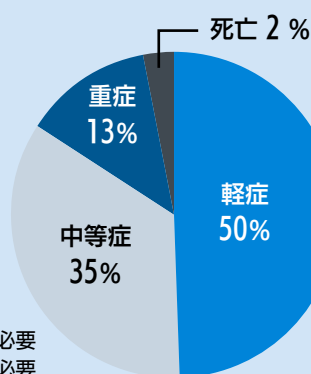
苫小牧市出動件数



平成26年
傷病程度別搬送人員
(総搬送人員6,763人)

- 軽 症 (3,374人)
- 中等症 (2,368人)
- 重 症 (885人)
- 死 亡 (136人)

※軽 症～入院や加療が不要
※中等症～3 週間未満の入院が必要
※重 症～3 週間以上の入院が必要



理由で救急車を呼ぶケースは後を絶ちません。救急車の現場までの到着時間は平均8分程度ですが、これらのケースが増加すると、最寄りの場所からの出動ができず、大きく時間がかかってしまいます。結果として、命の危険がある方への対応の遅れにつながる場合があります。



インタビュー

救急要請の現場で 今おきていること



消防署 主幹
通信担当
きくち としあき
菊地 俊昭

救急要請の最前線「消防署通信」で任務に当たる署員にお話を聞きました。

消防署指令室では、1日平均27件、多いときには40件ほどの救急要請を受けます。

その内容は、心肺蘇生などが必要な一刻を争う事態から入院を必要としない軽症の場合まであります。なかには「お酒を飲んでしまい運転できないので病院まで送ってほしい」「病院に行く前に銀行・スーパーに寄ってほしい」などといったものもあります。

ほかには、間違い電話もよくあります。無言電話になってしまつと状況を確認するため現場へ向かわなければなりませんので、すぐ切らずに「間違えました」の一声を伝えてもらえると大変助かります。

このような緊急性の低いケースが増加すると、出動要請が重複し、遠方から出動しなければ

なりません。現場到着までに通常よりも時間がかかってしまうため、われわれも危機感を募らせています。

私たちは一刻も早く皆さんの元に到着するため、救急要請から1分以内に救急車が出動できるように備えています。



▲消防署指令室